

会 議 録

- 1 会議の名称 令和 5 年度第 1 回男女共同参画審議会
- 2 開催日時 令和 5 年 7 月 2 6 日（水） 1 8 時 3 0 分～ 1 9 時 5 0 分
- 3 開催場所 妙高市役所 1 階 コラボホール
- 4 出席した者の氏名
【委 員】 永井早苗委員、藤巻礼子委員、渡辺昌子委員、小川優子委員、藤田浩平委員
山崎淳子委員、後藤信哉委員、岩浅賢治委員
（欠席）横山正夫委員、古川詠子委員
【事務局】 生涯学習課：鴨井課長、小林補佐、保坂係長、畑山主査
- 5 会長・副会長等の選任について
委員による協議の結果、会長は山崎淳子委員、副会長は藤田浩平委員、人権懇話会委員は古川詠子委員を選任。
- 6 議題・発言の内容など
 - （1）妙高市における男女共同参画の取組について
資料 1 「妙高市における男女共同参画の取組について」により事務局が説明
＜質疑、意見等なし＞
 - （2）「男女が共にあゆむパートナープラン 2020～2029」の進捗状況について
資料 2 「第 3 次妙高市男女共同参画計画成果指標一覧」、資料 3 「令和 5 年度の取組について」により事務局が説明
＜質疑・意見など＞
委 員：令和 5 年度に実施した市民意識調査の概要について、説明してほしい。
事 務 局：目的は、次期の第 4 次妙高市総合計画の策定にあたり、市政の満足度や重点を置くべき施策分野などについて、市民のニーズを把握するためのまちづくり意識調査。
調査対象は市内在住の 15 歳以上の市民 1,000 人。回答は 386 人。
委 員：取組番号 29 番、「女性の人権が尊重されていないとを感じる市民の割合」について、人権に関する市民の意識調査の結果（5 年毎に実施）とあるが、これも市民意識調査にあるのか。
事 務 局：今回のアンケートでは、設問項目とならなかったものであり、その理由は確認したい。なお、別の方法で市民の意識調査を実施することとしたい。
委 員：審議会の委員は 2 年間の任期の中で、資料 2 の指標 33 項目すべてについて審議していくのか。
事 務 局：項目を 1 項目ずつご審議いただくものではない。男女共同参画事業全般についてご指導やご助言を賜りたい。
委 員：フォトコンテストについて、とても良い事業だと思う。たくさんの方に応募してもらうため PR の方法について審議会の皆さんから意見はないか。

委員：お店などにチラシやポスターを掲示することは良い。また、QRコードの掲示も効果的。

委員：コンビニエンスストアへのチラシやポスターの掲示が良い。また、QRコードも効果が期待できると思う。子どもはQRコードを見ると読み込みたくなる。子ども目線で応募を集めることも良いと思う。小学校でもクラブ活動で写真を撮ったりするので子どもでも応募できるようにするのも良いと思う。

委員：現代の若い世代はカメラを持っていない人が多い。スマートフォンで写真を撮る人が多いので、応募規定に「データでの応募も可」とした方が良い。そうすると容易に写真が撮れるのであわせて著作権についても明記した方が良いと思う。

PR方法についてはSNSでの発信も効果的だと思う。

委員：募集要項をもう少し柔軟にした方が良い。参加すると楽しそうだなと思えるような要項にした方が良く考えるし、応募の自由度をあげてほしい。選択肢が多い方が応募数は増える。また要項などでは、例を示してほしい。事例があると応募しやすい。伝え方がポイントだと思う。

委員：先日、「いきいきプラザまつり」が開催された。インスタグラムで告知したところ多くの方から来場いただいた。来場者に聞き取りしたところ、インスタグラムで知ったという方が多くSNSはとても効果がある。

委員：表彰について、どのような。

事務局：市の特産品などを考えている。

委員：妙高市消防団でもインスタグラムのアカウントがある。妙高市のアカウントはあるのか。

事務局：インスタグラムでは、市の公式アカウントは取得していない。

委員：学校関係にも広報してほしい。いろいろなクラブ活動に働きかけると良いと思う。

事務局：新井高校の社会科クラブなどにも広報したいと考えている。

委員：10年間の計画であるが、途中で計画の見直しはしないのか。今年度実施した市民アンケートの速報値を聞いたが、このアンケートの数字のみで市民全体の意識として捉えてもいいのか疑問。

事務局：計画期間は、10年間となっているが、5年目に見直しすることとしている。この市民アンケートは、次期の第4次妙高市総合計画の策定にあたり市民ニーズを把握するための市民意識調査である。前回の市民アンケートは2,000人を対象にしたが、今回は1,000人を対象としている。総合計画策定にあたってはアンケートの数値のみでなく、社会の状況なども考慮し、項目ごとに詳細に調査しヒアリングを重ね策定していくこととされている。

委員：ヒアリングはすごく大事。このアンケートの数字のみで判断してほしくない。また、追加でアンケートを実施するなど詳細に分析し、検討してほしい。

DVの相談窓口について、市民はどのように知ることができるのか。

事務局：妙高市は「市民総合相談室」があり、その相談員が窓口となっている。市報やホームページでは通年の周知を行っている。

委員：日々、市民の皆さんが知る機会があるといいと思う。

委員：アンケートの結果について、年代別の傾向なども分析してほしい。また、アンケートの目的やその活用方法などが明確になっていると、アンケートへの協力が得られやすくなると思う。フォトコンテストの周知についても、若い人にはQRコードでの周知も有益であるが、年代があがってくるとまた別の方法も考えた方がよい。

事務局：年代別クロス集計も行っている。ヒアリングも行い、全庁的に協議していく

委員：市民アンケートについて、最近は市民も防犯意識が高くなり、アンケートへの不信感を抱く方も多いと思う。わかりやすい説明などを心掛けてほしい。

委員：事業所訪問については、どのような事業所に何社くらい訪問しているのか。

事務局：市内企業においては、事業所の規模や業種が多様であるが、毎年10～15件の事業所を訪問している。訪問の際には、事業所内からの要望やハッピーパートナー企業への登録を呼びかけた。

委員：ハッピーパートナー企業をどのようにPRしているのか。

事務局：市で開催している男女共同参画のパネル展において、ハッピーパートナー企業の皆さんから事業所での取組を紹介するポスターなどを作成してもらい、広く市民にPRしている。

(3) その他

<なし>

上記に相違ないことを確認する。

令和5年 9月 5日

妙高市男女共同参画審議会
会長 山崎 淳子